

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築士計画	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(60時間)	開講・履修期	2025年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	原田 智章（自身の設計事務所で、集合・戸建て住宅等の設計・監理に従事のほか、資格学校での製図指導など幅広い知識を生かした授業をおこなう。）				
授業の到達目標	1級建築士試験 学科Ⅰに合格するための知識を修得し、本試験において16点以上獲得できる実力を養うことを目標とする。授業項目順に講義を行い、過去出題問題等の演習を実施する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	対面での講義形式を基本とする。試験対策の問題演習時間も取り入れる。また、画像や動画等の教材も使い、テキストでは理解しづらい部分の補助と補強を行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第15回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	ガイダンス 建築士の職責・建築設計の手法等 居住施設 学校教育施設 社会教育施設 医療施設 高齢者施設 商業施設
第16回～ ～第30回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	細部計画 建築積算 都市計画 建築生産 古典建築史 近現代建築史 問題演習・試験対策

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期24週、後期17週 年間計41週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築士環境・設備	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	8単位(124時間)	開講・履修期	2025年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	瀧波 龍太郎（建築設計事務所で、住宅、事務所等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	本科での基礎をふまえて、1級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第31回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・日照・日射 ・採光・照明 ・色彩 ・室内気候と気象 ・換気 ・熱・結露 ・音響
第32回～ ～第62回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・空気調和設備 ・省エネルギー・保全・管理 ・給排水衛生設備 ・電気設備 ・昇降機設備 ・防火・防災設備 ・直前対策講座

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期24週、後期17週 年間計41週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築士法規	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	8単位(120時間)	開講・履修期	2025年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	宮野 人至(実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所で、公共建築、住宅、クリニック、事務所等の意匠設計及び監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	1級建築士試験科目での法規は、試験5科目の中の一つの重要科目である。1・2・3年での基礎をふまえて、1級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・用語の定義 ・確認申請 ・面積・高さ ・手続き ・採光 ・一般構造① ・一般構造②
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験、個別補修
第23回～ ～第41回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・用途地域 ・避難施設 ・構造 ・防火区画 ・内装制限 ・建築士法 ・高さ制限 ・雑則 ・その他関連法令
第42回～ 第46回～	学科試験対策 学科試験対策	・演習テスト ・総合学力判定試験
第50回～ ～第60回	学科試験対策	・直前対策講座

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期24週、後期17週 年間計41週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築士構造	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	8単位(120時間)	開講・履修期	2025年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	伊原 雅之（自身の設計事務所で、主に構造の設計・監理に従事のほか、資格学校での学科指導など幅広い知識を生かした授業をおこなう。）				
授業の到達目標	1級建築士試験科目での構造は、構造力学と一般構造の二科目を兼ね備えた試験5科目の中の一つの重要科目である。1・2年での基礎をふまえて、1級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第25回	学科試験対策 (一般構造編)	ガイダンス 荷重、外力 構造計画・耐震設計 鉄骨構造 鉄筋コンクリート構造 鉄骨鉄筋コンクリート構造 木造構造 基礎構造 融合問題
第26回～ ～第60回	学科試験対策 (構造力学編)	力のつり合い 静定ばり・静定ラーメン トラス部材の軸方向力 合成ラーメン 断面の諸性質 断面に生じる応力度とひずみ度 部材の変形 不静定構造物 座屈 振動 全塑性モーメント 崩壊荷重 融合問題

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期24週、後期17週 年間計41週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築士施工	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	7単位(116時間)	開講・履修期	2025年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	1級建築士試験 学科Ⅴに合格するための知識を修得し、本試験において20点以上獲得できる実力を養うことを目標とする。授業項目順に講義を行い、理解度テストや過去問題演習等を実施する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、試験対策の実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	学科試験対策	ガイダンス
	学科試験対策	契約・施工計画・管理計画
	学科試験対策	仮設工事
	学科試験対策	地盤・土工事・基礎
	学科試験対策	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事・プレキャスト工事
	学科試験対策	鉄骨工事
～第29回	学科試験対策	木工事
	学科試験対策	コンクリートブロック工事・ALCパネル工事
第30回～	学科試験対策	防水・屋根工事
	学科試験対策	左官・タイル・石工事
	学科試験対策	塗装・建具・ガラス工事
	学科試験対策	内装・改修・設備工事
	学科試験対策	施工機械・器具・測量
～第58回	学科試験対策	問題演習・試験対策
	学科試験対策	問題演習・試験対策

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期24週、後期17週 年間計41週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築士製図Ⅱ	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	10単位(320時間)	開講・履修期	2025年度・1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	宮野 人至(実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所で、公共建築、住宅、クリニック、事務所等の意匠設計及び監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。) 瀧波 龍太郎(建築設計事務所で、住宅、事務所等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	1級建築士試験の二次試験である設計製図試験のための知識・技術を修得し、本試験において必ず合格できる実力を養うことを目標とする。 授業項目順に講義・演習を行い、後半は模擬試験形式で実力を養い試験に備える。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第45回	製図試験対策 製図試験対策	ガイダンス 今年度課題の特徴、ポイント、対策 法規対策 計画の要点对策 各図面の作図手順説明・演習 平面図 断面図 面積表 計画の要点 作図トライアル
第46回～ ～第80回	製図試験対策 製図試験対策	課題文の読取り手順説明・エスキス演習 課題文の読取り方の説明 エスキスに使う単位の説明 敷地の使い方(有効利用)の説明 プランニングの基本を説明 建物の想定床面積の計算 エスキスの実践
第81回～ ～第115回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・課題文の読取り・エスキス・作図 試験時間6.5時間で完成させるための練習
第116回～ ～第160回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・模擬試験 模擬試験形式で課題をこなし、 多様な課題に対処できるように練習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期24週、後期17週 年間計41週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築研究	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	7単位(216時間)	開講・履修期	2025年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	宮野 人至(実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所、公共建築、住宅、クリニック、事務所等の意匠設計及び監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
	仲本国照(設計事務所におけるCAD、BIMを活用した設計業務で培った経験を活かす授業を行う。)				
授業の到達目標	「建築研究」では、様々な活動、研究、課題制作を通して、今後の人生の糧となるようなテーマの探求を行う。そのための企画の立案、条件の選定等を自主的に行う。また適宜、文献、役所調査も行い、コンセプト等を設定し、実務に近い建築設計(計画)や企画、提案ができることが目標である。スケジュール管理も行い、実務に即した演習とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	授業は演習形式を主体とするが、必要に応じて校外授業なども取り入れる。また、映像やスライドなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。課題制作は、個人またはグループによる制作とする。一級建築士の学習も終了しており、より専門的な知識と技術を生かして課題作成に当たる。役所調査等の実務演習も取り入れる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席率、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	ガイダンス	・「建築研究」で実施する活動、研究、課題の意義と内容について - 下記より一つ選定 1.設計課題(建築設計課題) 2.コンペ課題(自由設計課題) 3.建築研究課題(レポート形式) - 主な目的は、研究対象分野の既存の知識に基づいて論理的推論を行い、証明すること。論理的推論を行うとは以下のような能力を指す。 ・情報分析能力:既存の情報やデータを扱い、それを適切に理解し分析すること ・論証能力:自分の主張をサポートするために必要な証拠を集めて用い、説得力のある議論を形成・展開すること ・検証能力:自分の結論や他人の主張に対して批判的な視点を持ち、その妥当性を評価すること
第3回～	校外活動	展示会の見学/街並みの散策等の実施 歴史的建築物や有名な建築物(美術館、図書館等)の見学
第30回～ 第40回～	対象調査・敷地調査等 企画・コンセプト エスキス① エスキス②	・各自で設定した現地調査及び役所にて関連法規等の調査を行う ・企画を立案し全体スケジュールを設定、コンセプトを練り上げる ・建築士になるために勉強した専門知識を生かし、社会において今何が建築に求められているかを考察する
第50回～	エスキス③ エスキス④	・コンセプト・敷地・用途・構造の設定は自由である ・既存の建築物のリノベーション、コンペ等を研究テーマとして選んでも良い
第60回	中間発表	・社会に何を提案できるか、自らの研究内容を、図面(作成途中)やスタディ模型、文章等を使い、発表する
第61回～ 第100回	図面・模型等の作成① 図面・模型等の作成② 図面・模型等の作成③ 図面・模型等の作成④	・必要な課題の作成に取り掛かる ・途中でチェックを受けながら、軌道修正する ・課題の進捗状況に応じた、各種成果物の作成に取り掛かる ・発表内容や成果物の全体構成を取りまとめる
第101回～	プレゼンテーション① プレゼンテーション②	・コンセプトのまとめ方、発表における文章、図面表現、模型写真等の選定、及び全体のレイアウトを指導する
第104回～ 第108回	クラス講評会	・クラス内でプレゼンテーションを行う。 ・他の作品、活動発表を通して、今後の仕事、研究に向けたモチベーションの向上、知識・技術の更なる向上を目指す

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期24週、後期17週 年間計41週